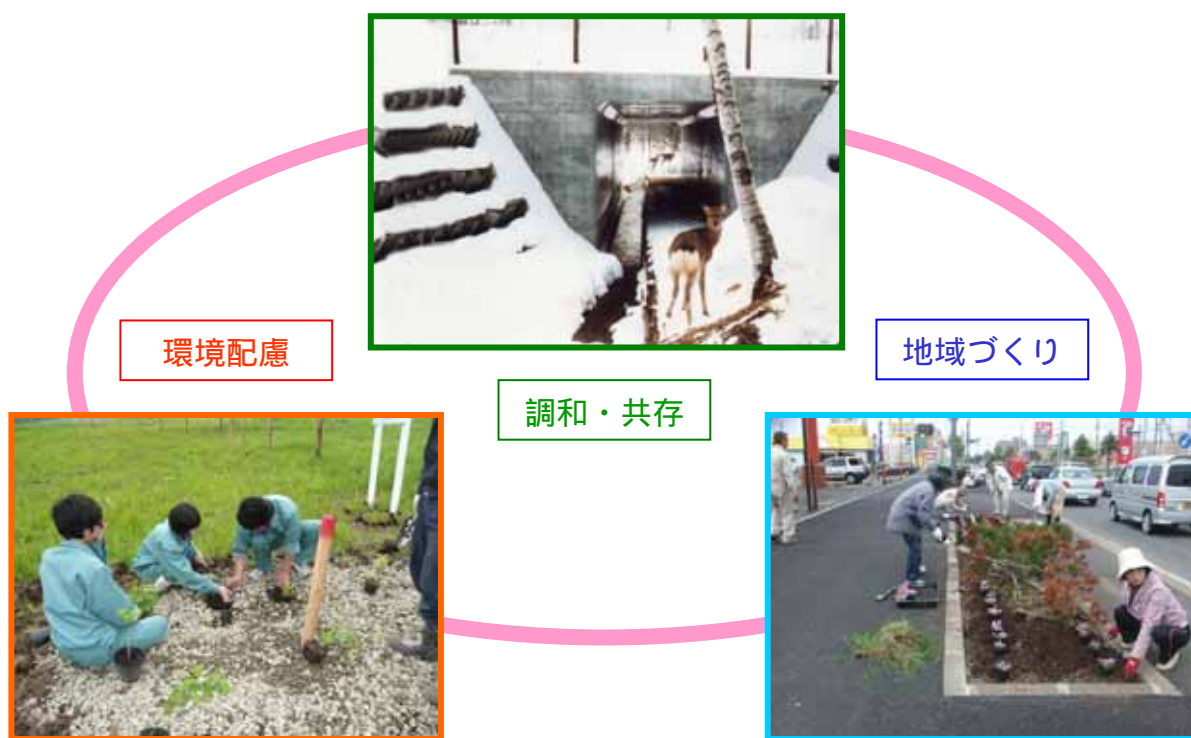


## 自然との調和・共存

### 地球環境に配慮

### 活力ある地域づくり



## 《 北海道の豊かな自然環境の価値を発現し 向上させるための施策をすすめます 》

自然環境の変化、天然資源の減少、地球温暖化といった地球規模での環境問題が深刻化し、国民の自然に対するニーズが多様化している中、これらの課題の解決に取組み美しい北海道を実現させる必要があります。

釧路開発建設部では豊かな自然環境を国民共通の資産として将来に継承し、美しい四季の風景等を保全・創出して、雄大な自然の恵みを体感できる地域づくりを進めていきます。

また、環境負荷の少ないエネルギー利用は、北海道の気候、地形、社会的特性を活かせる有利な分野であり、北海道に豊富に存在する自然エネルギー源を活かし、環境と経済が調和した地域社会の形成を進めていきます。

ここでは、釧路開発建設部が実施している取組の一部を紹介いたします。

# 自然と共生する社会を形成するために

地域の恵まれた自然環境の保全・再生を図るため、**釧路湿原自然再生・茅沼地区旧川復元事業**を行っています

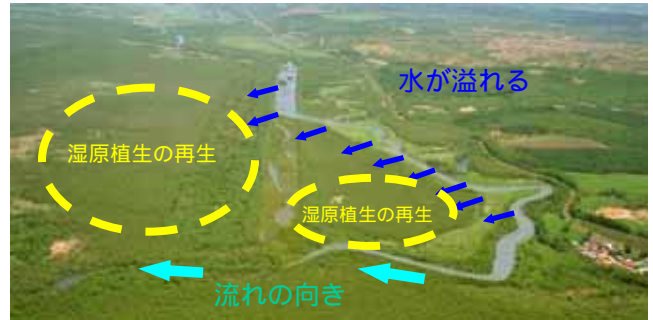
釧路湿原は、日本の湿原の中で最大の面積を誇り、特別天然記念物のタンチョウが生息するなど、将来にわたって保全すべき貴重な財産です。しかし、流域の経済活動の拡大に伴い、近年60年間で湿原面積の約3割が減少し、また、土砂などが湿原に流入した結果、乾燥した場所に生育するハンノキ林が約4倍に拡大するなど、量的・質的に著しい速度で変化しています。

平成15年には自然再生推進法に基づく「釧路湿原自然再生協議会」が設立され、平成17年には「釧路湿原自然再生全体構想」が策定され、流域住民、専門家、NPO、関係機関等の連携・協働により、釧路湿原保全・再生のための各種施策を推進しています。

釧路開発建設部では、湿原中心部へ流出する土砂を軽減すること、湿原植生（ヨシ・スゲ類）の再生、魚類の生息環境の復元、湿原景観の復元を目的に、茅沼地区の旧川復元事業を実施しており、今年度に蛇行河川への通水を予定しています。また、茅沼地区旧川復元事業では、流域住民との協働により、湿原植生の移植も行っており、湿原の早期再生が期待されます。



現況



復元予想図

## 期待される効果

- 湿原中心部への土砂流出などの負荷の軽減
- 氾濫原の再生による湿原植生の再生
- 湿原河川本来の魚類などの生息環境の復元
- 湿原景観の復元



釧路湿原川レンジャーによるヨシの植樹



標茶高校生物部による  
ネムロコウホネの移植

## 旧川復元



## 冬期の道路安全対策として自然景観に配慮した防雪林の整備を進めています

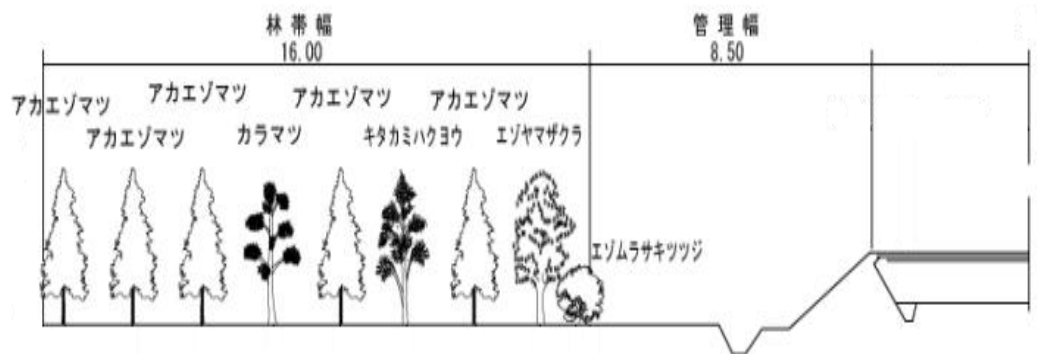
国道44号浜中町茶内にある防雪林の樹木は、植樹後20年近く経過し立派に成長しており、防雪対策として十分な効果を発揮しています。さらに当該防雪林にはエゾマツなど防雪対策の樹木だけでなく、桜、つつじといった樹種を配置することによって沿道景観に配慮するとともに、エゾヤマザクラ、エゾムラサキツツジという在来種を植えることにより環境にも配慮し、他にない四季を感じられる防雪林となっています。



春



冬



# 低炭素社会・循環型社会を形成するために

船のアイドリングストップの推進のため、釧路港において船舶（小型船）への陸上電力供給の実験を行います

釧路港観光交流施設であるフィッシャーマンズワーフMOO（ムー）前岸壁において、盛漁期に外来漁船が係船し停泊する場合、船内での保冷库や生活用機材等への電力供給のため、船のエンジンによる自家発電を行っています。このため、周辺地域への排気ガスや騒音の問題が生じています。これを改善するために、今後は接岸中の船舶が必要とする電力を陸上施設からの供給に切り替える予定であり、この実用化に向けた実証実験を行います。

## 期待される効果

港湾地域における排出ガス（CO<sub>2</sub>、SO<sub>x</sub>、NO<sub>x</sub>等）の削減が図られ、地球温暖化対策や大気環境改善が推進されます。また、当該地域においてはMOOに近接して旅客船ターミナルを整備中であり、これらの環境改善実現により観光交流エリアにおける更なる賑わいが期待されます。



釧路港観光交流施設であるMOO前岸壁



船舶への陸上電力供給のイメージ

## 環境と共生する酪農郷をめざして、国営環境保全型かんがい排水事業を実施しています

環境保全型かんがい排水事業は、農業生産性の向上と併せて、環境との調和に配慮した環境保全型農業の確立を目指した事業です。

農業用水に牛のふん尿を混ぜて混合物（スラリー）を作り牧草畑にまくことで牧草生産性の増加と、ふん尿の適正な管理により野積みなどによる河川等への流出を防ぎます。また、降雨による牧草畑のたん水や湿害を解消する排水路に、遊水池や土砂緩止林を設けた浄化型排水路は、土砂や余分な窒素・リンなどが直接排水路や河川に流出するのを防ぎます。

このように、環境にやさしい農業を目指しています。

### 事業のイメージ

たん水：農地の地表に水がたまること。



### 事業の目的



### ひばい しせつ 肥培かんがい施設

用水路から送られた農業用水と牛のふん尿を混ぜて混合物（スラリー）を作り、貯留する施設です。ふん尿の活用により効果的なりサイクルを行うとともに、ふん尿の野積みなどによる河川等への流出を防ぎます。

### しょうかがた はいすいる 浄化型排水路

降雨による牧草畑のたん水や湿害を解消し、牧草の生産性の向上とともに、遊水池や土砂緩止林による水質浄化等の機能を併せ持つ排水路です。排水路に流入する土砂や余分な窒素・リンなどが直接河川等に流下するのを防ぎます。

## 北海道に適した新たなバイオマス資源の導入のための調査検討を進めています

北海道開発局では、食料需給に影響しないバイオマス資源作物として木質系植物利活用の可能性を追求するため、ヤナギ（エゾノキヤナギ・オノエヤナギ）に着目し、生物学的な検討を行うとともに新しい技術を用いた加工・利用、地域産業との連携構想等の検討を行っています。

この実証実験のために、白糠町の試験ほ場にヤナギを植栽し、ヤナギに関する生物学的データや収穫までの栽培技術に関する検討を行います。



白糠町のヤナギのほ場

### なぜ、ヤナギなの？

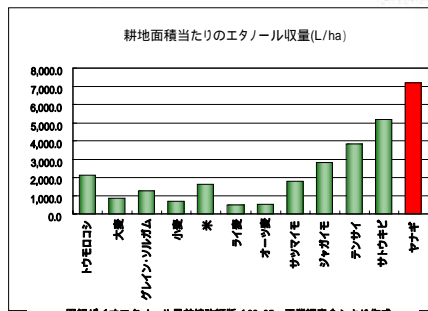
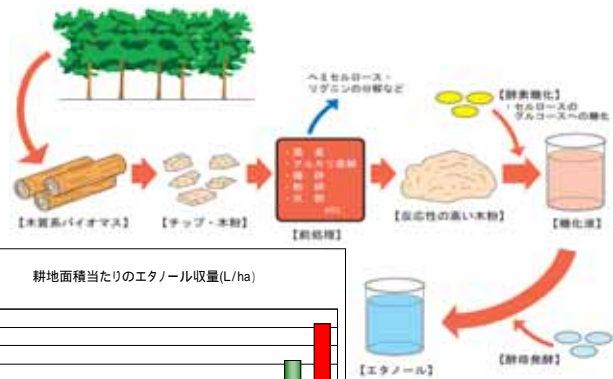
- ・寒冷環境下に適した樹種
- ・ごく短期に熟帯早生樹に匹敵する生長量
- ・再生力が強いので、粗放的な栽培が可能
- ・食糧需給と競争しない

北海道に有利  
バイオマス資源として有利  
栽培コストが低い  
農地以外の土地を有効活用

### ヤナギ栽培の利点？

- ・クローンで増やすことができる
- 親と同じ優良な形質を持つ個体を増殖可能

### バイオエタノール生産実験の実施 木質バイオマスからのアルコール発酵



図解バイオエタノール最新編改訂版 (08.05, 工業調査会) より作成

## 出前講座を受講してみませんか？

### 「出前講座」ってナニ？



釧路開発建設部では、当部が行っている施策や事業の内容についてもっとみなさんに知っていただくとともに、みなさんのご意見やご感想を聞かせていただく場として「出前講座」を開設しています。

この「出前講座」は、事業に実際にたずさわる当部の職員が直接みなさんの所へお伺いして、施策や事業に関するテーマを、職員が持つ知見や最新情報をまじえながらわかりやすくお話しするものです。

また、講座での質疑応答を通じて、みなさんの各種ニーズや声を聞かせていただき、できる限り今後の施策に反映させていきたいと考えております。

この「出前講座」を、日ごろの疑問、興味あるテーマへのご理解にお役立てください。

### 講 「出前講座」の一例



釧路湿原見学会



現場見学会(阿寒トンネル、釧路新道等)  
「幣舞橋について」  
施設見学(除雪ステーション等)



地域の暮らしと産業を支える釧路港  
根室港について



釧路・根室管内の酪農について  
環境に配慮した農業事業について  
甦る牧草地について

### 問 詳しいお問い合わせは

釧路開発建設部 広報官 まで  
電話 0154-24-7354

こちらで、出前講座について  
詳しく紹介しています  
<http://www.ks.hkd.mlit.go.jp/demaekouza.html>

ここに紹介したのは一部です  
お気軽にお問い合わせ下さい。



【編集・発行】

北海道開発局 釧路開発建設部 広報官

〒085-8551 釧路市幸町10丁目3番地 釧路地方合同庁舎

TEL 0154(24)7354 FAX 0154(24)7100

ホームページ: <http://www.ks.hkd.mlit.go.jp/>

平成21年7月13日発行